



No. 16

2005 - 5 - 25

日本蜘蛛学会

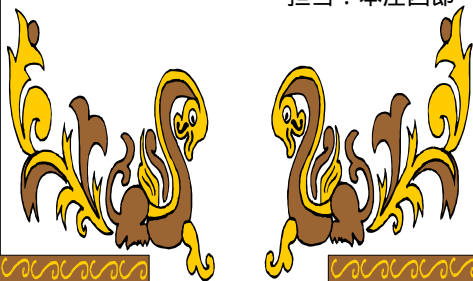
## インフォメーション

### 日本蜘蛛学会 第 37 回大会について

日本蜘蛛学会第 37 回大会は、2005 年 8 月 27 日（土）と 28 日（日）に、兵庫県豊岡市にあります竹野スノーケルセンター・ビジターセンター（竹野町切浜大浦）にて開催されます。

エクスカージョンやシンポジウムなどの詳細については、後日案内を送付いたします。

担当：本庄四郎



## 訃報

本学会の名誉会員で評議員を永く務めておられました千国安之輔先生が本年 3 月 10 日に亡くなりました。御葬儀はすでに執り行われましたが、来る 6 月 12 日（日）に下記のような要領で関係者による告別式（お別れの会）が開催されます。

記

日時：平成 17 年 6 月 12 日（日）

午前 11 時から

場所：長野県南安曇郡穂高町大字穂高

1816 あずみ野 法祥苑

（大系線穂高駅下車徒歩 20 分）

Tel：0263-81-1666

詳細については、新海栄一まで

Tel：042-321-0289

## 日本蜘蛛学会奨励賞について

今回も奨励賞候補の推薦がありませんでしたので、「該当者なし」ということになりました。

（吉田 真）



## 同好会情報

ここでは日本各地にあるクモ同好会で発行されている定期行物の内容、採集会や講演会（総会・例会）の日程などを紹介する。興味を持たれた方は入会したり、行事に参加されてはいかがでしょうか。

東京蜘蛛談話会（会長：新海栄一）

会報「KISHIDAIA」を年2回、「談話会通信」を年3回発行。採集会年4回・合宿年1回・総会例会などを年2回実施。

今年度の採集会は、神奈川県秦野市「弘法山」で実施します。

2005年7月10日（日）

10月16日（日）

2006年2月19日（日）

小田急線鶴巻温泉駅北口午前10時集合。

世話人 池田博明

合宿は佐賀県で行ないます。

期日：2005年7月31日（土）～8月1日（月）

宿泊：佐賀県佐賀郡富士町古湯温泉「山水荘」

費用：1泊3食 10000円×泊数+保険等  
4000円

申し込み締め切り：6月30日

申し込み、問い合わせ先：

〒192-0352

八王子市大塚 274-29-603

新海 明

例会は、



東京蜘蛛談話会例会の一コマ

2005年11月下旬の予定。詳細は後日連絡します。

KISHIDAIA 87号（2005.4.30発行）

西野真由子：マネキグモの日周活動

池田博明：クモの会会報から再録 1 ハエトリグモの生態観察の記録

水山栄子・成田和子・日置乃武子：生田緑地のカネコトタテグモとキシノウエトタテグモ

新海 明：ジョロウグモの網の張り替え周期

甲野 涼・初芝伸吾：都市公園における野鳥  
巣箱～クモの住み心地を考える～

平松毅久：赤いハグモの体温調節姿勢

谷川明男：アシプトヒメグモは年2化である

谷川明男：毎日ジョロウグモを数えた

笹岡文雄：東北地方におけるキシノウエトタテグモの分布

徳本 洋：石川県で見たイソコモリグモ  
*Lycosa ishikariana* (S. Saito 1934) 生き残りの条件

貞元己良：秘湯の旅（山梨県増穂町の合宿）  
DRAGLINES

平松毅久：アリを捕食していたトラフカニグモ

平松毅久：埼玉県内に残存するコガネグモ方言の記録

新海 明：ミヤシタイソウロウグモが水平円網に侵入していた

新海 明：ヨリメグモの造網で「こしき部」の移動を見た

新海 明：ゴミグモの網に侵入し網主を食べていたアシナガグモ

笹岡文雄：山梨県におけるキシノウエトタテについて

笹岡文雄：アシナガグモの餌盗みについて

笹岡文雄：新潟県におけるキシノウエトタテ  
の採集記録について

笹岡文雄：新潟大学構内にワスレナグモが多  
産

高津佳史：今夏も！沖縄本島クモウォッチン  
グ 沖縄クモ図鑑を持って

赤羽尚夫：箱根の仙石原でヒメハナグモの生  
息を確認

<目録ドラッグラインズ>

新海 明：岩船寺・浄瑠璃寺周辺のクモ

谷川明男：沖縄県座間味島のクモ

伴 満：“県別クモ類分布図 ver.2004”の記  
載県以外で採集した蜘蛛のリスト

新海 明：奈良県 室生寺周辺のクモ

馬場友希：徳之島で採集したクモ

馬場友希：与那国島で採集したクモ

加藤輝代子・青山裕司・石田博則・笠原浩人・  
岡田匡平・柏瀬真希・片瀬英高・駒野英昭・  
鈴木健介・高津素夢・高橋 功・田中大輔・  
渡辺紀子：山梨県南巨摩郡増穂町付近のク  
モ類相について 第1報

谷川明男：2004年6月の沖縄のクモ採集記  
録

新海 明・谷川明男：東京蜘蛛談話会 2004  
年度合宿報告山梨県南巨摩郡櫛形山周辺  
のクモ

新海 明・谷川明男：文献による栃木県産ク  
モ類目録

谷川明男：日本産クモ類目録（2005年版）

入会申し込み

〒186-0002 国立市東 3-11-18-203

(有)エコシス内

初芝伸吾 (事務局)

Tel: 042-571-1012

E-mail:

hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

会費 年 3800 円 (学生 2000 円)

関西クモ研究会 (会長：山野忠清)

会報「くものいと」を年2回発行 .採集会・  
研究会例会などを年数回実施 .

今年度の採集会は ,2005年5月29日(日)  
と9月25日(日),いずれも生駒山方面を予  
定 .

例会は ,2005年12月25日(日)に大阪  
市の四天王寺高校で実施の予定 .

くものいと 36号 (2004 . 12 . 5 発行)

加村隆英：喜界島でハイイロゴケグモを発見  
船曳和代：ゴミグモに付く寄生蜂の幼虫の寄  
生状況について

田中穂積：庭で発見されたワスレナグモ - 第  
2報

小野展嗣：国際クモ学会議 (ベルギー) に出  
席して

清水裕行：第1回武田尾採集会報告

高章 浩：採集会の感想



関西クモ研究会例会後の懇親会

船曳和代：チュウガタコガネグモの網にトカ  
ゲ

クモリスト

吉田 哉：山形県のクモ類目録

同定指南

田中穂積：同定指南 コモリグモ  
Lycosidae(その3)TriccaとArctosa 属  
海外の研究トレンド

榎元敏也：コモリグモの雌はおなじみの雄が  
好き

新刊紹介

加村隆英：「ピアノのためのポエジー クモ  
の糸のはしご」(中島はる作曲)

池田勇介：和歌山県海南市のクモ相撲

入会申し込み

〒567-8502 茨木市西安威2-1-15

追手門学院大学生物学研究室内

関西クモ研究会

Tel: 072-641-9550(加村研)

Fax: 072-643-9432(大学教務課)

会費 年1000円



中部蜘蛛懇談会例会の一コマ

中部蜘蛛懇談会(代表:緒方清人)

会報「蜘蛛」を年1回、「まどい」を年3  
回発行。採集会を年2~4回。総会・研究会  
を年1回実施。

採集観察会は、

2005年6月5日(日)

愛知県豊田市京ヶ峰「豊田市自然観察の森」

担当者 緒方清人

名鉄本線知立駅改札口 午前8時15分集合

2005年6月26日(日)

愛知県豊田市勘八町オイスカ(勘八山)

担当者 杉山時雄・大原満枝

名鉄本線知立駅改札口 午前9時30分集合

現地集合の場合 東海自然歩道勘八山駐車  
場 午前10時30分

2005年9月

名古屋市内 担当者 柴田良成

2005年11月

美浜 担当者 原 譲

いずれの観察会も、参加の際には事前に担  
当者に連絡のこと。

中部蜘蛛懇談会・三重クモ談話会合同合宿

期日:2005年7月23日(土)~24日(日)

場所:犬山市入鹿池ならびに五条川周辺

担当者:須賀瑛文

詳細は後日連絡。

総会・研究会は2006年2月11日に実施。

蜘蛛(KUMO)37号(2004.7.17発行)

内容は、遊絲15号を参照のこと。

入会申し込み

〒444-0075 岡崎市伊賀町4-62-3

板倉泰弘（事務局）

Tel : 0564 - 28 - 5857

E-mail : yasuhi@deluxe.ocn.ne.jp

会費

正会員 年 3000 円(高校生以下 1000 円)

準会員 「まどい」のみ 1000 円

三重クモ談話会（本部：橋本理市）

会報「しのびぐも」を年 1 回発行 .採集会・  
合宿・例会などを年数回実施 .

採集会は

2005 年 6 月 26 日（日）大紀町大内山 J R  
大内山駅 10 時集合

7 月 23 日（土）～ 24 日（日）愛知県犬山市  
入鹿池・五条川周辺（中部蜘蛛懇談会との  
合同採集会）

9 月 11 日（日）鈴鹿市小岐須溪谷一帯 小  
岐須山の家 10 時集合

11 月 13 日（日）鈴鹿市野登山一帯 J R 亀  
山駅 10 時集合

12 月 11 日（日）久居市榊原温泉周辺 近鉄  
榊原温泉口駅 10 時集合

この他に鈴鹿市の調査，市民観察会，県博  
物館の自然展，亀山市の調査など多くの催物  
や調査があります .

同定会，2006 年 2 月 19 日（日）津市高  
野尾町 熊田さん宅 10 時集合

県内各地で毎回変わります .参加希望者は  
必ず 1 週間前までに事務局に連絡下さい .

総会は，2006 年 4 月に予定 .詳細は後日  
連絡します .

しのびぐも 32 号(2005 .5 .31 発行予定)

入会申し込み

〒 515 - 0044 三重県松阪市久保町 1843  
- 157

貝發憲治（事務局）

Tel ( Fax ) : 0598 - 29 - 6427

会費 年 3000 円

和歌山クモの会（会長：米田 宏）

会報「和歌山クモの会会報」を年 1 回発行 .  
総会・観察会を年 1 回実施 .

総会・観察会は 2005 年 9 月頃に予定 .詳  
細は後日，会員諸氏に連絡します .

和歌山クモの会会報 No.14 (2004.9.17 発  
行)

内容は，遊絲 15 号を参照のこと .

入会申し込み

〒 649 - 6264 和歌山市西浜 465 - 3

第 2 小杉マンション 1 - A

青木敏郎（事務局）

Tel : 090 - 1072 - 4414

会費 年 1000 円

関西クモゼミ

しばらくの間，休会中 .

東京クモゼミ

毎月 1 回 ,第 1 日曜日に千葉県市川市の加  
藤宅で開催 .会費などなく誰でも参加できる .

連絡先 新海 明 0426 - 79 - 3728

または，加藤輝代子 047 - 373 - 3344

## 言いたい！聞きたい！



### 外来種問題と蛛形類

小野 展嗣

外来の動植物が日本の自然生態系を破壊する、という問題はすでに数十年も前から各方面で議論されています。タイワンザルやマングースをはじめ、日本の淡水の湖沼にスポーツフィッシングの目的で積極的に放流されたブラックバスとブルーギル、トマトの温室栽培のために導入されたセイヨウオオマルハナバチ、またペットとして大量に輸入されるオオヒラタクワガタなどの大型甲虫などがマスコミやいろいろな学会でも問題になり、シンポジウムも数多く開催されています。植物の外来種などは数えればきりがありません。

東京の港区に自然教育園という公園がありますが、そこに周囲が100メートルほどの小さい池がいくつかあります。そんなところにもブラックバスやブルーギルを放す人がいるのです。4、5年前までは平穏だった池在来のモツゴやエビ類があつという間に食い荒らされる事態になりました。ブラックバスはたった1対の雌雄が1年間で1000尾以上に増えたといえます。結局、徹底的な駆除が行なわれ両種合わせて数千尾が捕獲されほぼ駆逐されましたが、それに延べ約100日の時間と、250人以上が動員されました（矢野2005）。そのためには税金が投入されているわけですから日本全国でこれをやろうとするといったらいくらかかるのか。しかし、在来種の損失にかかる費用はさらにそれ以上に大きいと言われています。

政府（環境省）は最近、生態系等へ悪影響を

与える外来生物の輸入等を規制する特定外来生物被害防止法を制定しました。この法律の目的は、侵略的な外来動植物を「特定外来生物」に指定し、その輸入や売買、飼育、野外放棄などの行為を規制するとともに、被害を及ぼすおそれのあるものを「未判定外来生物」に指定し、輸入を制限する措置等が定められています（上杉2005）。

この法律ができた背景には、生物多様性条約があります。2002年の会議において、生態系や生息地よび種そのものを脅かす外来種の導入の防止や撲滅がうたわれた指針原則が示されました。我が国でもそれに沿って、法制化が計られてきたわけです。その過程で、なにが問題かが論議され、最終的な答申では、在来種の捕食、自然植生や土壌環境への影響、競合による在来種の駆逐、交雑による遺伝的攪乱などの生態学的な視点による被害とともに、刺咬や毒による人の生命、身体への被害など医動物学的な視点および農林水産物への被害も加えられました。現在の自然（生態系）保護には保全生物学が導入されていますので、前提として人間の存在とその経済活動を含んでいるのです。抽象的ですが、人間の幸福のためにいかに自然をコントロールするか、というのが根本にある考え方です。人命や農作物への被害を含ませたことは是非はともかく（個人的には問題ありと思いますが）政策上の理由があったものと思われる。

今年の1月31日、各新聞紙上に突然規制第一陣のリストが発表され話題になりました。それを見ておやっと思われた方もいると思います。というのは、生態系に影響があるかどうかはまだわかっていない、ゴケグモ類などのクモやキョクトウサソリ科のサソリなどが入っているからです（別表）。これは生態系「等」となっているとところがミソで、前述したように、毒性の強

いクモやサソリは当然「毒が人の生命や身体に被害を与える動物」としてこの法律の範疇に入るので。農作物へ影響のあるハダニ類や伝染病を媒介するマダニ類，多足類などは見送られました。

当日マスコミでは，チュウゴクモクズガニ(上海ガニ)が騒がれました。このカニは本来指定からはずれた「要注外来生物」だったのですが，身近な食材というところと「要注意」というところが一般にはよりインパクトが強かったようです。新海栄一氏からはその晩に電話があり，ジョウゴグモが問題だと，流石に鋭いご指摘をいただきました。

じつは，この法律(正確には「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」といいます)は，昨年度の国会で音もなく成立していたもので，現在は種の指定と実際にどのように措置をしていくか，という段階に入っています。私は，昨年図らずも昆虫以外の節足動物を含む分科会の委員として環境省の作成した候補の原案の審議にあたりました。会議は公開で喋ったことはすべて記録され公表されています。

この法律でもっとも影響を受けるのはクモやサソリをペットとして扱っている輸入業者や小売店であろうと思いますが，われわれ蛛形類の研究者にとってももっとも関係の深い法律だと思われま。インターネット上の環境省のホームページ <http://www.env.go.jp/nature/intro/3shiryu.html> で簡単に見ることができますのでぜひご一読をお薦め致します。

とくに注意すべき点をあげると，特定外来生物に指定されている種は，許可なしには，持ち込むことも，譲渡することも，飼養することもできません。そして違反すると，条文によって「三十万円以下の罰金」から「三年以下の懲役

若しくは三百万円以下の罰金(法人は1億円以下の罰金)」までの罰則規定があります。

実際にどのように運用するのはこれから環境省のほうで早急に整備して頂かなければなりません。たとえば，税関では誰がどのようにチェックするのか，輸入業者はどのような書類が必要か，研究目的の飼育等の許可はどこでもらうのか，発見して捕獲するときにはどうしたらよいか，飼育する研究機関ではどのような設備が必要なのか，などなど解決しなければならない問題がたくさんあります。それ以上に，指定されている種と一般の外来種，また同類の在来種を誰がどうやって見分けるのか，頭の痛い問題です。

研究目的でセアカゴケグモやハイイロゴケグモを採集，飼育するとき(ゴケグモ属はほかの種もすべて未判定外来生物)や，外国から生きたまクモやサソリを持ち帰るときには，法律に違反していないか事前に十分確認するようにしてください。また，入国管理や市中の現場では，クモの同定が正確になされるとは思えません。在来のオオクロケブカジョウゴグモやイトグモ，アカオビゴケグモ，またタランチュラ類の扱いにも慎重を期して頂きたいと思います。なお，サソリ類の同定は専門家でもひじょうにむずかしく，キョクトウサソリ科以外の科に属する種を扱っている場合でも，「キョクトウサソリ科ではない」という証明書がないと輸入は不可能であると考えなければならないでしょう。

未筆ながら，貴重な御助言を頂いた，江原昭三，篠永 哲，新海栄一，上杉哲郎，武田正倫の各氏に心から御礼を申しあげます。

#### 引用文献

矢野 亮 2005. 外来種(ギルとバス)の捕獲大作戦. 国立科学博物館ニュース, 430:

26-29 .

上杉哲郎 2005 . 外来生物法の制定と対策について . 生物科学 , 56 : 83-89 .

表 . 特定外来生物に指定された蛛形類 (未判定外来生物は略す)

*Latrodectus hasseltii* セアカゴケグモ

*Latrodectus geometricus* ハイイロゴケグモ

*Latrodectus tredecimguttatus* ジュウサンボシゴケグモ

*Latrodectus mactans* クロゴケグモ

*Loxosceles reclusa* ドクイトグモ

*Loxosceles laeta*

*Loxosceles gaucho*

*Atrax* spp. シドニージョウゴグモ属全種

*Hadronyche* spp. この属の全種

Buthidae spp. キョクトウサソリ科全種

(国立科学博物館)

## 喜界島探蛛行

加村隆英

昨年(2004年)8月と今年(2005年)3月に喜界島に行ってきた。もちろん、クモの採集が目的である。喜界島は奄美大島の東に位置する周囲50km足らずの島である。私の周囲の人に、「最近どこかに行きましたか」と聞かれて、「喜界島に行ってきた」と答えると、「そこは人が住んでいるのですか」なんて言う人もいるが、もちろん無人島なんかではない。鹿児島県大島郡喜界町を形成するこの島には、約3,800世帯8,600人余りが暮らしている。

さて、私はワシグモやウラシマグモの仲間に

興味があり、南西諸島での調査を続けている。いちばん南の八重山諸島から始まって沖縄県の主な島はすでに訪れたので、さらに北の鹿児島県の島々も調査したいと思っている。一昨年には沖永良部島に行ったので、今度は喜界島にしようと思ったわけだ。

## 夏の喜界島

2004年8月4日、喜界島へ出発。今までの採集と同様、今回も妻が同行した。大阪伊丹空港から約1時間40分で奄美空港へ着く。飛行機を乗り換えて10分ほどで喜界空港に到着した。空港は島の南西部にあり、この境界が島でいちばん大きな集落である。レンタカーの手続きを済ませ、空港のすぐ近くの宿泊場所へ向かう。事前にインターネットで調べて、宿泊所リストの最初にあった島内でもっとも大きなホテルを予約しておいた。着いてみると一応は「ホテル」だったが、とても古い建物で、浴室のすみにはカビが生えていたり、水道の栓がちゃんと閉まらず、常に水がちょろちょろ流れていた。とはいえ、クーラーはちゃんと動くし、数日間滞在するうえで特段の問題はない。

宿に着いてひと休みしても、まだ午後4時なので、出かけることにする。この島は隆起珊瑚礁で、高い山はなく、島全体はほぼ平らだが、



島の高台からの景色



島の南東部には高さ 200 m ほどの断崖が続いている。島の南部の浦原という集落を抜けて、断崖脇のくねくね道を登って行くと奄美大島が見渡せる場所に出た。そこで車を止めて景色を眺める。眼下には青々としたサトウキビ畑が広がり、海の向こうに奄美大島が横たわっている。離島に来るといつも思うことだが、このような景色を見ると都会での生活の煩わしいことがらをしばらくの間、忘れることができるのがうれしい。

景色の写真を撮って、ふと近くを見ると、最近植えられたと思われる樹木の支柱の下にクモの網を見つけた。ヒメグモ類の網のようである。網の一部に糸が密に編まれた繭状の部分があり、その中に卵囊が透けて見えている。その卵囊の表面には、いくつかの小さな突起がある。ひょっとして、これは？ まず、写真を撮ってから、その繭状の部分壊すと小さなクモが出てきた。このクモの網なの？ いや、これは雄だ。さらに奥を探ると、いました、大きな雌が。やはりハイイロゴケグモであった。これは、ご存知のとおり、世界の熱帯域を中心に広く分布しているクモで、日本国内では 10 年くらい前から各地で発見されているものである。喜界島でも、すでに 2001 年にフェリー発着場で確認されているが (吉田, 2002), 今回の発見場所は島の内部の高台である。この場所には建てられたばかりの鉄塔があり、その周囲にはいくつかの資材が置かれていた。今回の個体もこのような外部から持ち込まれた人工物にくっついて侵入したものかもしれない。

さて、翌日からは島のあちこちでお目当てのワシグモ類とウラシマグモ類を探した。この島の大部分は畑地であるので、クモが採集できる場所は限られている。2.5 万分の 1 の地形図と現地ですて手に入れた資料を手がかりにポイントを



ハイイロゴケグモの網の一部。繭状の部分の内部に卵囊がある。



ハイイロゴケグモ

探す。

観光案内図を見ると、島の南部にモクマオウロードというのがある。モクマオウの並木があるらしい。オーストラリア原産のこの植物は、やせ地に耐えるので、防風防潮林として、南西

諸島の島々ではごく普通に植えられている。一見、針葉樹のように見えるが双子葉植物である。枝がきわめて細かく分岐し、かつ、葉がとても小さく、枝の表面に鱗片状に張り付いているので、細かい枝が針葉のように見えるのである。この小枝が降り積もった地面には他の植物があまり生えず、この植物の細かい小枝だけが敷き詰められているという状態のことが多い。その落枝層を地面から剥がすようにして見ていくと、ゴキブリやワラジムシに混じって、ときにワシグモ類が見つかる。じつは、モクマオウ林はワシグモ採集において、はずすことのできないポイントなのである。

というわけで、そのモクマオウロードにさっそく行ってみた。採集を始めるとすぐに、期待どおり、ワシグモを発見した。チャクロワシグモの仲間である。しかし、まだかなり小さな子グモで、種は分からない。これが八重山諸島に分布するハエミノチャクロワシグモと同種なのかどうかを確かめたいところだが、今回はお預けである。おそらく、2~3月に成体になると思われるので、その時期に出直すことにしよう。

ガイドブックによると、島の中央部に「鳥の山公園」というところがあり、「森がほとんどない喜界島のなかで、ここは樹木がうっそうとしている」と書いてある。「公園」というからには、きっと林の中に遊歩道などがあって、採集もしやすいだろうと思い、ちょっと期待して行ってみたのだが、「樹木がうっそうとしている」というほどのものではなく、食事のできる施設の横に少しばかり林があるだけだった。とはいえ、落ち葉をザルで篩ってみると、ウラシマグモの一種が採れた。ルーペだけでは種までは分からなかったが、成体である。これは、帰宅後、同定し、ヤマネコウラシマグモであることが判明した。このクモは、北は屋久島から南は西表島

まで南西諸島に広く分布しており、この島にも生息することを確認しておきたかったものだったので、これは今回の成果のひとつとなった。

さらに他の場所にも行ってみることにする。地形図で神社マークを探す。神社の周囲には林があることが多く、これは採集しやすい場所なのである。島の北部の志戸桶（しとおけ）という集落の近くの神社に行ってみた。ここは海岸の近くで、モクマオウがたくさんある。地面を探すと、ケムリグモ類の幼体を発見したが、かなり小さい。さらに、島の北端のトンビ崎というところのモクマオウ林でも、ケムリグモ類の幼体を見つけた。これがクロチャケムリグモなのか、あるいは、別の種なのかを知りたい。今回は時期が合わなかったが、生息場所は分かったので、次回に来たときのお楽しみにしておこう。

ワシグモ類については、他に2種を採集できた。一つはメキリグモ。先に述べたハイイロゴケグモを見つけた場所のすぐそばのアスファルト道路脇の落ち葉の下で、数個体を採集した。もう一つはカワラメキリグモで、上述のトンビ崎で雌成体1匹を見つけた。

その他のクモで、この島でよく目につくものは、チブサトゲグモ、オオジョロウグモ、スズミグモ、トゲゴミグモの4種である。いずれも南西諸島ではお馴染みの種で、とくに珍しいわけではないが、行く先々で出会うこれらのクモたちは、南の島に来ていることを実感させてくれるかわいい連中である。

ところで、話は少し変わるが、2004年10月下旬、私のところに「探偵ナイトスクープ」というテレビ番組のスタッフから電話があった。この番組は、ご存知の方も多いと思うが、視聴者から寄せられるさまざまな依頼に基づいて、「探偵」が現場に赴き、依頼者が抱える問題を

おもしろおかしく解決するというものである。今回、番組に寄せられた依頼の内容は次のようなものだった。「私は京都に住んでいます。数年前に喜界島に行ったときに、電線の間、脚を広げて 50 センチもあるクモがたくさん巣を張っているのを見ました。友達に話しても誰も信用してくれないので、私が嘘をついていないことを証明してください。」偶然にも、つい先日行ったばかりの喜界島のクモの話題ということでうれしかったけれども、さすがに脚を広げて 50 センチのクモはありえない。喜界島で見たオオジョロウグモ（たしかに電線の間を網を張っているものもいた）を思い出しながら答えた。「それはほぼ間違いなくオオジョロウグモでしょう。しかし、脚を広げてもせいぜい 20 センチです。見慣れない大きなクモの印象が強烈で、また、電線を見上げたその距離の遠さによって、大きさを錯覚してしまったのだと思います。」大きいクモといえば、アシダカグモが思い浮かぶが、これだって、「手を広げたくらいの大きさだ」と言う人は少なくないから（遊絲の読者ならご存知のとおり、そんなに大きいわけではない）、オオジョロウグモも 50 センチということになってしまうのだろう。



オオジョロウグモ

さて、喜界島は観光にはあまり力を入れていないようである。リゾート開発が急速に進みつつある南西諸島のいくつかの離島とは異なり、観光客がうじゃうじゃいるということはなく、落ち着いた雰囲気のある島だった。この島の主要な産業はいうまでもなく農業である。島のかなりの部分を占めて栽培されているサトウキビはもちろん重要だが、もうひとつの主要作物は白ゴマであり、これは日本一の生産量を誇るそうである。ちょうど訪れた時は収穫期で、民家の周囲では、刈り取られたたくさんのゴマが束ねられて天日に干されていた。採集を終えて宿に帰る途中で見た、ゴマの花が風に揺れながら夕日に照らされている光景はとても美しいものだった。

#### 春の喜界島

今年の 3 月は大学の仕事がきわめて忙しかったが、なんとかスケジュールを工夫して、4 日間だけ日程を組むことができた。前回の宿舎はかなり古かったものの、大浴場もあったので、疲れをとるにはよからうと考えて、同じところに予約の電話をした。しかし、4 月いっぱいには改装中で、泊まれないとのこと。前回泊まったのは、改装直前だったのだ。どうりで、おんぼろだったわけである。そこで、すぐ近くの別のビジネスホテルに泊まることにした。こちらは新しいホテルで、壁紙が剥がれていることもなく、快適であった。

出発は 2005 年 3 月 13 日。これは日本列島に寒波が来て、日本海側の各地では大雪が降った日であった。奄美大島周辺でも天候はわるく、奄美空港に近づいた時には強風が吹き荒れており、そのため、飛行機は着陸をやり直したほどだった。さらに、空港に降り立ったとたんにバラバラと雷が降ってきたのには驚いた。暖かい

イメージのある奄美でも雷は降るのである。こんな天候で喜界島に渡れるのかと、少し心配したが、その後、風はややおさまり、無事に喜界空港に到着した。

さて、翌日は天候も回復したので、さっそく採集である。前回目を付けておいたモクマオウロードに行く。しかし、行ってみると、周辺の下草が刈られ、モクマオウの落枝層も剥がされている。近くのサトウキビ畑の人が掃除をしたのかもしれない。いい場所だと思っていたのに残念である。それでも、かなりねばった結果、妻が1匹のチャクロワシグモ類を採集した。雌の未成熟個体だが、あと1回の脱皮で成体になると思われるので、大事に連れて帰ることにする。

次に、前回ケムリグモ類の幼体が採れた志戸桶の神社に行った。しかし、ここでは期待に反して何も採れなかった。しかたがないのでトンビ崎に行く。ここでは、モクマオウの落枝をさんざん掻き分けて、ケムリグモ類を2匹だけ見つけることができた。しかし、いずれも小さな個体である。前回の8月に幼体だったので、3月には成熟しているかも、と思っていたのだが、すっかり当てがはずれてしまった。では、いつ成熟するのだろうか？ 初夏か、秋か？ どうやら、もう一度、違う時期に来なくてはならないようだ。

当てにしていた場所での成果が思わしくないので、今度は、空港北側の海岸近くに行ってみた。ここにはモクマオウはなく、ひたすら石を起こしてクモを探す。そして、幸運なことにチャクロワシグモ類を3匹見つけることができた。そのうち2匹は雄の成体である。これではる来た甲斐があったというものだ。

翌日は、朝から晴れて、風もなく穏やかだった。まずは、昨日と同じ、空港の横のポイント

に行く。まだ起こしていない石がたくさん残っていたので、全部確認しないと気がすまなかったのだ。目ぼしい石を片端からすべてひっくり返して、さらに2匹のチャクロワシグモ類を採集した。これで少し気をよくして、今日は天気もいので海の景色も眺めようと思い、夏にハイロゴケグモを発見した高台に行くことにする。樹木の支柱や鉄塔の周辺を再度確認してみたが、ハイロゴケグモは見つからなかった。ワシグモはというと、鉄塔の横に残土を盛り上げたところがあり、妻がそこに転がっている石をひっくり返してみると、いきなりチャクロワシグモ類が見つかった。ここでは、妻が次から次に見つけて、計6個体を採集できた。昨日までに採った分を合わせると10匹を越す。これだけ採れば、ワシグモの場合、大漁というべきである。

ところで、春の喜界島は夏とはまた異なる趣をもっていた。クモに関しては、当然賑やかさはない。造網性のクモはほとんど目に付かず、たまにトゲゴミグモに出会う程度だった。まだ気温は低いものの、それでも陽射しは春を感じさせ、路傍にはルリハコベヤスミレの仲間がたくさん咲いていた。夏は白ゴマの収穫期だったが、今回は、柑橘類のひとつであるタンカンの



ゴマの花



ルリハコベ



チャクロワシグモ類の一種

とれる時期だった。これは甘味と酸味の調和がととてもすばらしく、今までに食べた種々の柑橘のなかで、もっともおいしいと思わせるものだった。

さて今回は、チャクロワシグモ類を採集できたことが大きな収穫であった。これはハエミノチャクロワシグモなのか？ 帰宅後、さっそく、顕微鏡で確認してみた。ところが、ちょっとへんである。少しばかり違うのだ。これは地理的な変異なのか、あるいは、ひょっとして新種なのか？ おもしろいことになってきた。このクモの正体を明らかにするためには、さらに奄美大島や徳之島の個体も見ることがあるだろう。これからもまめに南の島に通いたいと思っている。

## 文 献

吉田政弘，2002．侵入毒グモの分布拡大・防除に関する研究．<http://www16.ocn.ne.jp/~obk-2/makoto120/makoto120.htm>

## タウンゼンド・ハリスが 安政三年（1856）に記録した ドクログモ

川名 興

津本陽（1993）『開国』には次のように記述されている。「・・・略，安政三年に下田へ到着したのである。彼は下田柿崎村の玉泉寺を宿舎とさだめた。日本上陸の第一夜を，片いなかの寺院本堂で迎えたハリスは，日記に次のように記した。（九月四日以下略）

九月六日の日記。『今夜はコオロギ科の奇妙な昆虫の声を聞く。その啼き声は，あたかも大速度で走る豆機関車のごとくであった。部屋部屋に蝙蝠こうもりがいる。大きな髑髏蜘蛛どくろぐもを見る。この虫が立つと，脚は五インチ半に及んだ。家内を走りまわるたくさんの大鼠を見て，気持ちがわるくなる。夜になって軽い驟雨しゅうう』とある。このハリスの日記についてはすでに坂田訳（1954）の『ハリス日本滞在記』には，同じ所をみるとコオロギは蟋蟀で，科は族，蜘蛛は蛛，インチは吋で，漢字が新しい漢字を使っている点と土曜日がぬけている点をのぞけばびったりの文章である。註に安政三年八月八日とあって九月六日は太陽暦に直してあることがわかる。また老中宛ての下田奉行上申書を紹介し，その中で柿崎村玉泉寺へ假に滞留罷り・・・云々とあり，津本の文を裏づける。

さて前述のドクログモはアシダカグモと考えられる。このドクログモは下田での呼び名を聞いて書いたものか，あるいは頭胸部の斑紋から

ドクロのように感じたのかはわからない。白井祥平監修(2000)『全国方言集覧』にドクログモの呼び名は見出されない。

川名(1969)には千葉県内でバケグモの名が安房郡鋸南町, 富山町, 富浦町, 和田町, 館山市にあり, この転訛のバケグモが安房郡三芳村, バケグモが安房郡白浜町, ユウレイグモの名が木更津市に分布する。ドクログモの意とバケグモ, ユウレイグモはそれぞれお化けや幽霊の意で着想が似ている。夜, 障子などの上をガサガサと音を立てて歩くから, 恐ろしいクモと人々は感じていたのである。コウモリは多分アブラコウモリであろう。

謝辞

ドクログモの名が出ている『ハリス日本滞在記』『開国』紹介して下さい樋口誠太郎氏, また千葉県立中央図書館, 木更津市立図書館の方々にご教示いただいた。紙面をお借りし感謝申し上げます。

引用文献

川名興(1969)千葉県の動物方言第一報。p81。自刊。

坂田精一訳(1954)ハリス日本滞在記 中。p54-56。岩波書店。

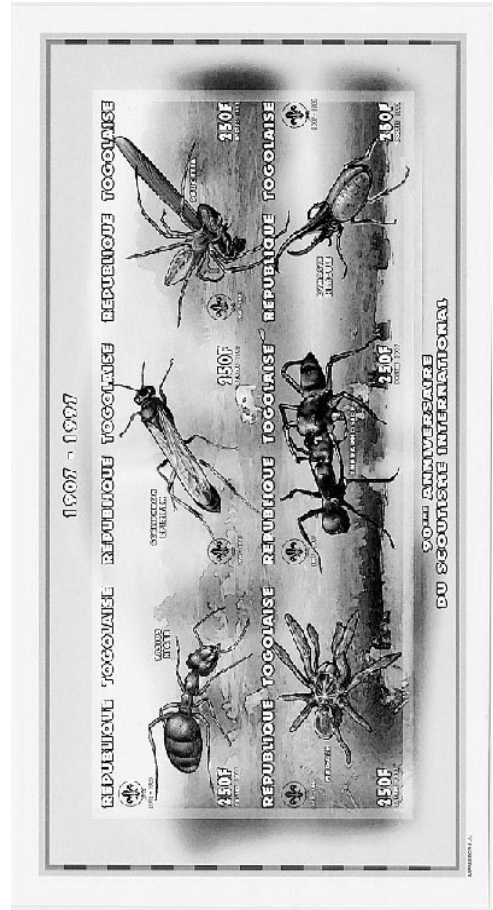
白井祥平監修 太平洋資源開発研究所編(2000)全国方言集覧 関東編(下)。1701pp。太平洋資源開発研究所。

津本陽(1993)開国。p191-192。日本経済新聞社。

## クモ切手の風景 1

笹岡文雄

アフリカのトーゴで1997年に国際ボーイスカウト運動90周年記念として発行されたものです。大きさ9cm×15.5cmの1枚物。



クモは右上, ワカバグモ風の"*Peucetia*"はササグモの一種の属, 日本にはいませんがアフリカや北米に分布しています。左下タランチュラは"*Mygale*", フランス語でオオツチグモ, 真ん中のアオオビハエトリ風の"*Theraphoside*"表記は何とオオツチグモ科の科名です!

アリの巨大なのか, ツチグモが小さいのか不思議です。

とはいえどうしたことか表記がバラバラ, 学名なり, 通称なりに統一ぐらいしてくれないと。

さてそれでトーゴってどこでしょう? 自分も恥ずかしながら名前は知っていましたが詳細は不詳。調べてみると, 旧フランス領で首都はロメ, 人口約530万 面積5万7000km<sup>2</sup>(四国の約3倍)。ギニア湾に面して西はガーナ, 東

はベナンに挟まれさらにその東はナイジェリアという位置関係です。

この切手見たとおり料金と国名表示があるので、一応は6枚組のようです。なのに目打ちがありませんので実際に使用するためには一々ハサミで切らなければいけません。いくら記念切手といっても実用まったく無視の切手ですね。実は日本でも何種類か目打ちのないこのような小型シートを発行していますが、1枚1枚の切手がここまでべったりくっついている物はありません。6枚組とわかりますがいったいどこで区切るのか不明です。

アフリカ諸国の多くは世界の蒐集家目当てに色々工夫した切手を発行、というより発売しています。外貨獲得のため、つまり輸出品として切手を発行しているわけです。

こういっては失礼ですがトーゴでボーイスカウトが盛んというのはきいたことがありません。それに何でボーイスカウトの記念がクモ、ハチ、アリにカブトムシなんでしょう？

つまり単にコレクション仕様になっていると考えると、表記も構成もどうでもいいのかもかもしれません。

ちなみに料金の 250F, Fは CFA フラン, 1CFA フラン 17 銭なので 1枚約 42 円 50 銭になります。

## 採集情報

日本各地で採集された、稀産種や分布上の重要種などについての情報を掲載する。これを読み、「私もこんな種類を採集しているぞ」という方はその情報を是非お寄せいただきたい。

マダラヒメグモ 1M 2004/11/6 神奈川県  
茅ヶ崎市赤松町 野村美和子採集(神奈川県新)  
カトウツケオグモ 1F 2004.12/12 鹿児島  
県奄美大島宇検村湯湾・赤土間 亘 悠哉採集



カトウツケオグモ

コウライササグモ 1F1e 2004/7/3 東京都  
八王子市上川 安藤昭久採集(東京都新)  
エラブウラシマグモ 1F7M 2004/3/15-30  
(ピットホール) 神奈川県奄美大島瀬戸内  
中央林道 亘 悠哉採集 加村隆英同定(奄美大  
島新)。

ヤンバルオニグモ すべて鹿児島県奄美大島  
森さやか採集。2005/4/24 1F 里林道  
4/25 1F 中央林道金作原 4/27 1F 中



ヤンバルオニグモ

中央林道金作原 4/27 1F 中央林道湯湾釜  
(奄美大島新)

アオオニグモ 1F 2005/5/1 八丈島植物公園  
脇 司採集(八丈島新)

キノボリトタテグモ 1F 2005/5/1 八丈島  
植物公園 脇 司採集(八丈島新)

カラカニグモ 1M 2005/5/1 石垣島南野  
楽園キャンプ場 脇 司採集(石垣島新)

チリイソウロウグモ 1y 2004/9/25 石垣  
島於茂登岳 馬場友希採集(石垣島新)

(谷川明男)



## ギャラリー



『いったいどうやって?』

自分の体長の5倍ほどもあるオキナワツノ  
トンボを捕食しているトガリシロスジグモの雌。  
沖縄島の北部で撮影した。

(谷川明男)

## 編集後記

今年の冬は久しぶりに、冬らしい冬で  
した。桜の開花も各地ですいぶんと遅れたよう  
ですが、その後の若葉の進捗状況は順調だっ  
たように思います。私が足繁く通う調査地の  
クモたちも活発に活動を開始しました。昨秋

のジョロウグモは不作でしたが、子グモたち  
はどんな按配でしょうか。気になります。

ここで紹介した各地の同好会が開催する  
クモ観察会に出掛けてみてはいかがでしょうか。

そして、そこで得たクモ情報を「遊絲」に  
お寄せいただければと願っています。

(新海 明)

遊絲原稿送付先

〒192-0352 八王子市大塚 274-29-603

新海 明まで

E-mail では dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp  
(谷川明男)まで

発行は、年2回(5月, 11月)の予定。締切  
は発行月の前月末日です。

## 日本蜘蛛学会

入退会は

庶務幹事

〒990-2484 山形市竜田 2-7-6

吉田 哉

Tel: 023-643-0697

Fax: 023-645-0698

E-mail: araneae@mol.f.uweda.ac.jp

会費の問い合わせ及び住所変更は

会計幹事

170-0004 豊島区北大塚 3-12-21

笹岡文雄

E-mail: spydm@big.or.jp

Tel 03-3918-1945

年会費 正会員 7000円(学生は5000円)

郵便振替口座 00970-3-46745

遊絲 第16号

2005年5月25日発行

編集者 新海 明, 谷川明男, 池田博明

発行者 日本蜘蛛学会 会長 吉田 真